

8. サージ類の地詰効果について

福島県立会津短大 佐川 澄子

1. 本研究は被服構成に先立ち、布地整理には如何なる地詰方法が適当であるかを解明しようとするもので、回はスラックス地に用いられる各種サージ6種を試料に今吸水量の多少が地詰促進に如何なる関係があるか、又これらの作用は布地の強度をどのように変化させるかを明らかにする。

2. 1m単価の異なる6種のサージの諸元を測定しておき、13×13cmに裁断、10×10cmに糸標をしてアイロンかけに丁度よい大きさの布を所要枚数調える。又アイロンあて布として用いられる布は糊抜きして熱伝導度をしらべる。

先ず硫酸デシケーターを用いて布地の水分を吸収させて恒量になった時の重量を規準として次の操作をする。

各を3個体1グループとして水温25°Cの水浴を10秒・30秒・1分・2分・3分・4分の6段階に分けて吸水させ、1.5分垂下して水滴をなくしてから吸水量を測定し、遠心分離脱水機にかけてから規準の30%水分まで風乾・自動アイロンであて布をあて、加圧する。この場合の収縮率と24時間後の回復率を測定する。実施した布地は小型ショッパー試験機で強度を測定する。

3. 以上の実験を通して吸水時間と吸水との関係、吸水量と収縮との関係を把握し、つづいて強度変化を検討して最も適当とする地詰効果について考察した。